【優　秀　賞】

氏　　名　　パラズリ　ムナ

国・地域　　ネパール

在日期間　　１年９か月

所　　属　　九州日本語学校

タイトル ： 私が思った日本

私の国ネパールには、家族や食べる物もない人たちがたくさんいます。大人も子どももです。彼らは住む家もなく路上で生活し、見つけたものは何でも食べます。過酷な生活環境により、幼い頃から体が弱ってしまうことも少なくありません。また、親を大切に思っていない人がたくさんいて、薬物など、子どもの素行不良が原因で、高齢になった親がホームレスになるケースも多いです。私はその現状を見て、高齢者の問題が気になるようになり、できることなら、自分も何か力になりたいと思っていました。

大学に進学した頃、当時日本にいた友人から、日本には高齢者向けの介護施設があると聞きました。これは、このようなホームレスの人々を助ける方法を知る最高の機会だと感じました。彼女の話を聞くと、日本では日本人が高齢者の健康的な生活を支援していることがわかりました。私も日本に行って、お年寄りを助ける方法についていろいろ学びたいと思いました。それが、私が日本に来た理由です。

私が日本に来てもう １ 年半になりました。その中で、驚いたことがたくさんあります。その一つは日本で働く元気な高齢者たちです。来日して初めてお弁当のアルバイトに行った際に、年をとったおばあさんの姿を見て、「このおばあさんは、ここに何をしに来ているんだろう？」と思いました。でも、職場に入ったら、そのおばあさんも入ってきて、私と一緒に働くためにここにいることが分かりました。後で聞いてわかったのですが、そのおばあさんはその時、79 歳でした。

初めて私のおばあさんの歳ぐらいの方と働いて、疑問に思ったことがたくさんありました。「どうして日本人はこんな歳まで働くの？ 日本は高齢者を働かせる国なの？ このおばあさん、本当に体は大丈夫？キツくないの？」このようなことを心の中でずっと考えていました。しかし、そのおばあさんの動きを見ると、20 代の私よりもテキパキしていて、びっくりしました。「おばあさん、お元気ですね」と一言、言いたかったけど、それができず、心の中でつぶやきました。アルバイトの初めての日でしたが、私は一生忘れられません。

ネパールでは、55 歳以上になると、仕事をしないで子どもに依存して生活するのが一般的なので、私にとって、高齢者と一緒に働くというのは不思議なことでした。以前のネパールは、先進的な技術も設備もないため、自分の体を動かすしかありませんでした。ですから、ネパールの人たちは、子供のころから生きるために働かざるを得なかったのです。勉強をする機会もあまりなく働いてきたので、体も早く弱ってしまい、高齢になったら働きたくても働けなくなってしまうのです。残念なことに、ネパールには、そんな高齢者を助けるための制度も設備もまだ整

っていません。

　初めて高齢者が働いているのを見て不思議に思った私は、やっと今、日本の生活に慣れてきました。日本は高齢者を働かせているのではなく、高齢者ができる限り自立した生活をするために、積極的に仕事していることを理解しました。ネパールと違って日本人は年を取っても子供に負担をかけずに、迷惑もかけずに暮らしたいという考え方を持っている人々がたくさんいることもわかりました。そして、高齢者のための社会的な制度も整っています。まだまだ日本と日本人について知らないことがいっぱいありますが、高齢者でも元気に働いている方々を尊敬します。さすが発展国だなあと思って、私の視野が広がり、留学に来た価値を実感しました。

　皆さん、あなたの夢は何ですか？ 私の夢は、日本の高齢者の健康的な暮らしについて勉強し、高齢者向けの施設で長く働いて、たくさんの知識と経験を積むことです。そして、母国に帰ったら、日本のように高齢者向けの施設を作り、高齢者の健康的な生活をサポートしたいです。そのために4月から介護の専門学校に進学する予定です。夢をかなえるために一生懸命頑張ります。